

研究発表・作品発表プログラム

日程：5月29日（日） / 会場：人文・社会科学総合教育研究棟 / 時間：10：00～17：00 / 受付：9：30～

	A (W101)	B (W102)	C (W201)	D (W202)	E (W309)	F (W310)	W409	G (W410)
10:00 10:30	齋藤理恵 / 沈静と錯乱—ヴァ リー・エクスポートの映像・イン スタレーション作品を中心に	中村滋延 / 小津映画における音の 構造的機能	柴崎敦 / 高等学校で映像を教える 意義—埼玉県立芸術総合高等学 校の取り組み—	浅利浩之 / 製作本数から見る日本 映画の傾向と問題—1930年 代と50年代を比較して	中山信子 / 『十字路』の1929年 のパリ公開時における新聞・雑誌 の評価		作品上映	
10:40 11:10	金在權 (キム・ゼジョン) / 映像 における抽象表現	石井拓洋 / A.コーブランドの映 画音楽について—E.W.コルンゴル ト作品との比較分析を通して	野村康治・櫻坂英子 / 撮影行為に 関する心理学的検討	山本佐恵 / 「文化紹介映画」から 「啓発宣伝映画」へ —太平洋 戦争期における国際文化振興会と 国際観光局の映画	木下千花 / 革命前夜—溝口健二の 『唐人お吉』 (1930)	石井陽之 / シースルーバーゲン 2011—剽窃により再現化する 新たな風景		末岡一郎 / EXTREME SKIING in 1930—学生・山岳映画の一形 態
11:20 11:50	井上裕子 / 運動のなかの静止—侯 孝賢『悲情城市』論	西岡恒男 / アラン・レネ後期作品 における演劇的空間	小出正志 / 学問としてのアニメー ション・再考	鶴田武志 / 松本清張「天城越え」 映画化にかけた男たち—清張作品 と松竹映画最後の蜜月—	ヨハン・ノルドストロム / 森岩雄 と初期サウンド映画	セハンボリガ / ジンバジャムソの 文様世界と電子書籍の展開につい て		太田曜 / 映画作品『FANTÔME』 —8mmをブローアップ、 16mm フィルムで制作した映画作 品
昼休み 11:50～13:30								
13:30 14:00	赤井敏夫 / インド映画の言語別観 客動態—バンガロールの事例を 中心に	竹林紀雄 / テレビメディアの映像 表現に関する一考察	森友令子 / 『白雪姫』の遠近法— —虚構空間における「リアルさ」	渡邊大輔 / サイレント期の日本映 画における児童=子役の表象— イメージと言説の比較から	大竹瑞穂 / 占領期におけるアイヌ の表現と植民地主義	井上貢一 / Motion Square HTML5 —Interactive Visual Toy	作品上映	
14:10 14:40	韓燕麗 / Third Cinemaは可能か— —「マラヤ化中国語映画」に関す る一考察	永田あきこ / 現代アメリカにおけ るコミュニティへの関心— 『ザ・シン普森ズ』の分析から	新麗芳 / 今敏作品における<夢> の表現—『パブリカ』を中心に—	上田学 / 最初期の旧劇映画と京都 の都市空間—興行街の存立を手 がかりに	小倉史 / 映画における復員兵イ メージ—松竹喜劇映画における 復員兵の描き方を中心に	小林和彦 / delusional sculpture		ビジュアル・ブレインズ (風間 正・大津はつね) / La Matière de Mémoire#3<D-Sign 22>
14:50 15:20	劉洋 / 「紋切り型的」、「扇情 的」—ジャ・ジャンクー映画 『世界』に見る「最下層民」表象	藤田明史 / 映像化された舞踏譜に 関する一考察	北市記子 / デジタル映像時代のア ニメーション表現	成田雄太 / 声色弁士の研究—土屋 松濤を中心として	ミツヨ・ワダ・マルシアーノ / 日 本映画における「アブレ」と「戦 後」	黒岩俊哉 / resonance#4		新堀孝明 / 老いを生きる — 「生命・生きる」についての映像 メディアにおけるアプローチ
休憩 15:20～15:50								
15:50 16:20		村田光男 / P F F (ぴあフィルム フェスティバル)—自主製作映画 からの発掘—	伊集院敬行 / モンタージュの切れ 目に開示される現実 —中井正一 の映像論の精神分析的解釈	中垣恒太郎 / (プロト)ドキュメ ンタリーの政治学—アメリカ初 期映画における歴史・テクノロ ジー・ナショナリズム	紙屋牧子 / 「明朗」時代劇のポリ ティックス—『鴛鴦歌合戦』 (1939年、マキノ正博)を中心 に		作品上映	芦谷耕平 / ユキとカンナの冒険 into the Kingdom of Mousehole
16:30 17:00		畑中朋子 / 映像メディア系フェス ティバルと実践コミュニティの形 成	鈴木啓文 / 任意空間と触覚性— ジル・ドゥルーズ『シネマ1』に おける感情イメージを巡って	長谷川功一 / ドキュメンタリー批 評としての『激怒』—フリッ ツ・ラングと30年代アメリカ	河野真理江 / 上原謙と“女性的男 性”—1930年代日本における女性 映画とメロドラマ—			河原大 / Making of テイルエン ダーズ—個人・少人数によるア ニメーション制作